障害学会　第19回大会　総会資料

・日時：2022年9月12日（月）～17日（土）【質問受付期間】

・形態：書面開催　（総会の審議は、大会HP上に資料を公開し、必要に応じてメールにて質疑応答を行う。2022年7月30日開催の理事会決定により、2022年度の総会の議決については、オンラインと対面のハイブリッド開催に鑑み、審議期間の終了をもって、会則12条が規定する総会の承認を得たこととみなす。）

・質問の送付先

障害学会事務局：g047jsds-support@ml.gakkai.ne.jp

審議事項

第1号議案　2021年度事業報告および会計報告

第2号議案　2022年度事業計画案および予算案

第3号議案　学会会則および理事選出規程の改正

報告事項

　第19回大会について

　各委員会、各担当からの2021年度活動報告、2022年度活動計画

第20回大会について

* 1　審議事項
* 第1号議案　2021年度事業報告および会計報告

①2021年度事業報告

　・理事会　第38回理事会　2021年9月2日（木）Zoom  
　　　　　　第39回理事会　2021年11月22日（木）Zoom  
　　　　　　第40回理事会　2022年1月25日（火）Zoom

　・理事選挙　2021年6月26日～7月12日　10期理事選出  
　・学会大会・総会　2021年9月25日（土）オンライン（山下幸子大会長）  
　　総会の承認により、第10期理事会の発足、各委員会・20周年記念事業のスタート  
　・学会誌　『障害学研究』第17号の編集・発行  
　・共催　2022年2月26日、28日　障害学国際セミナー2022  
　　　　　2022年3月10日、11日　日仏障害研究セミナー  
　・理事会声明　2022年3月4日　「ウクライナへのロシア連邦による侵攻と障害者の保護と安全に関する障害学会理事会声明」の発出

②2021年度会計報告

障害学会　2021年度収支計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  | （単位：円） |
| 科目 | | | | 予算 | 決算 | 合計 |
| Ⅰ　収入の部 | | | |  |  |  |
|  |  | 会費収入 | | 3,024,000 | 3,284,725 |  |
|  |  | 利息収入 | | 0 | 0 |  |
|  |  | 第18回オンライン大会　収入 | |  | 271,500 |  |
|  | 当期収入合計 | | |  |  | 3,556,225 |
|  |  |  |  |  |  |  |
| Ⅱ　支出の部 | | | |  |  |  |
|  |  | 事務局経費 | | 1,000,000 | 1,128,189 |  |
|  |  | 理事会費用 | | 50,000 | 0 |  |
|  |  | 第18回オンライン大会情報保障費 | | 300,000 | 243,100 |  |
|  |  | 第18回オンライン大会開催費支出 | | 200,000 | 198,605 |  |
|  |  | 編集委員会費 | | 50,000 | 0 |  |
|  |  | 研究企画委員会費 | | 150,000 | 62,560 |  |
|  |  | その他 | | 0 | 11,605 　\*1 |  |
|  |  | 学会誌発行制作費 | |  |  |  |
|  |  |  | 第17号：印刷・発送費 | 1,150,000 | 0 |  |
|  |  |  | 第17号：制作費 | 150,000 | 20,220 |  |
|  |  |  | 第18号：印刷・発送費 | 1,150,000 | 0 |  |
|  |  |  | 第18号：制作費 | 150,000 | 0 |  |
|  |  | 過年度年会費支払会員向け学会誌送付代 | | 60,000 | 0 |  |
|  |  | 当期支出合計 | |  |  | 1,664,279 |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 当期収支差額 | |  |  | 1,891,946 |
|  |  | 前期繰越収支差額 | |  |  | 4,854,428 　\*2 |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  | 次期繰越収支差額 | | |  |  | 6,746,374 |

\*1. 前期未払金の支払い時の手数料を「その他」に分類している。

\*2. 前期未払金145,020円を含む。

以上の会計報告に誤りのないことを確認しました。

　　　　　　　　　2022年9月5日　会計監査　木口恵美子、鈴木良

③　障害学会第18回大会（オンライン）　会計報告

2021年度障害学会第18回大会決算　大会長・山下幸子

【収入】

大会参加費　271,500円

内訳：

・参加費3,000円（自由報告者（シンポジウム参加を含む））納入者：33人99,000円

・参加費1,500円（シンポジウムのみ参加）納入者：115人　172,500円

合計　271,500円

　大会参加者は148人、うち93人が会員。

【支出】

・Zoomプロ、ウェビナー使用料（2か月分）　27,940円

・（株）ガリレオによる受付システム利用料　66,000円

・郵送費　740円

・大会運営スタッフ謝金　102,000円

　　　大会ホームページ管理、オンライン大会に向けた打ち合わせやリハーサル、当日運営のスタッフとして6名。1時間1500円として、実働時間数を謝金として支出。

・振込手数料　1,760円

合計　198,440円

以上、相違ありません。収支、支出ともに適正に執行されたことを認めます。

2021年11月8日 障害学会第18回大会　監査 髙橋淳

なお、大会開催における情報保障費は学会の会計から支出している。

【情報保障】

・手話通訳（ミライロ）

　2021年8月17日　リハーサル　48,400円

　2021年9月25日　大会当日　86,900円

　　　小計　135,300円

・文字通訳（ゆに）

　2021年8月17日　リハーサル　44,000円

　2021年9月25日　大会当日　61,600円

　　　小計　105,600円

・振込手数料　2,200円

合計　243,100円

【研究企画委員会】

・第18回大会シンポジウム登壇者（障害学会会員外）への謝金

第18回大会でのルールとして、①一人10分の第1部リレートーク登壇者は5,000円、②第2部シンポジウム登壇者は15,000円とした。

　オンライン化により出張がないのでこれまでの謝金ルールを変更

　以下敬称略。

岡部宏生　5,000円

小田島栄一　5,000円

村松正史　5,000円

児玉真美　5,000円

鷺原由佳　5,000円

西田えみ子　5,000円

木村英子　15,000円

渡邉琢　15,000円

　　小計　60,000円

・登壇者謝金にかかる振込手数料

　　小計　2,440円

・切手代

　　小計　120円

合計　62,560円

* 【第2号議案】2022年度事業計画案および予算案

①事業計画案

　　理事会　2022年4月9日（土）第41回理事会　Zoom

　　　　　　2022年7月2日（土）第42回理事会　Zoom

　　　　　　2022年7月30日（土）第43回理事会　Zoom

　　　　　　2022年12月17日（土）第43回理事会　Zoom

　　学会大会　第19回大会　2022年9月17日　ハイブリッド開催　大会長・廣野俊輔理事

　研究企画委員会　大会における基調講演・シンポジウムの企画運営  
編集委員会　『障害学研究』第18号の編集・発行、第19号の編集  
国際委員会　障害学会大会の国際化推進事業  
20周年記念事業実行委員会　出版に向けた検討・研究会等の開催、20周年記念大会の企画  
広報　会員一斉メールによる情報提供、HP更新  
ニュースレター　2022年5月　会費納入依頼およびニュースレターを郵送、メール配信

②2022年度予算案

【収入】

　　繰越金 6,746,374円

　　学会費 2,656,000円 納付率80%（＝［一般］400名x7000円＋［割引］130名x4000円）

　　第19回オンライン大会収入　 200,000円

|  |
| --- |
| 収入計　　　9,602,374円 |

【支出】

事務局 1,000,000円

理事会 50,000円

研究企画委員会 150,000円

編集委員会 50,000円

国際委員会 150,000円

20周年記念事業委員会　出版WG 300,000円

20周年記念事業委員会　SDS共催WG 200,000円

第19回オンライン大会情報保障費 300,000円

第19回オンライン大会支出　 200,000円

学会誌（17号） 1,300,000円

学会誌（18号） 1,300,000円

過年度年会費支払会員向け学会誌送付代 60,000円

予備費（繰越予定金） 4,542,374円

|  |
| --- |
| 支出計　　　　　　　 9,602,374円 |

【学会誌制作発行費　内訳】

　第18号制作費　　　 　　 150,000円  
　第18号発行費　　　　　1,150,000円　

* 【第3号議案】学会会則および理事選出規程の改正

　学会運営の継続性を確保する観点から、理事の任期の変更を提案する。現行では連続3期までと規定されているところを連続4期までと改正する。下記の通り、学会会則第20条および理事選出規程第2条の改正を提案する。

①障害学会　会則

（役員の任期）第20条　（一部省略）

旧：理事については、連続しての再任は3期までとする。

新：理事については、連続しての再任は4期までとする。

②障害学会理事選出規程

２．理事選挙の選挙権および被選挙権　第２条　（一部省略）

旧：理事を3期重任しつつある者は、その被選挙権を有しない。

新：理事を4期重任しつつある者は、その被選挙権を有しない。

　なお、ここでいう理事とは、選挙での選出理事のほか、推薦理事（選出理事の推薦により補充される理事）も含む。

* 2　報告事項
* 2022年度第19回大会について

　第19回2022年度大会は、新しい試みとしてハイブリッド方式での大会となる。理事の廣野俊輔（同志社大学）が大会長を務めている。

　これまでの対面での学会方式における自由報告とポスター報告は、自由報告として一本化した。前年度同様、大会サイトに掲載された報告者の原稿に対し、質問を受け付け、その質疑応答内容を大会サイトに掲載するかたちをとっている。自由報告エントリー数は41である。

　総会も前年度に引き続き、書面開催となる。9月12日に総会資料を大会サイトに掲載し、同日から17日17時30分までを会員からの質問受付期間とする。受付期間の終了をもって総会での承認に代える。

　9月17日（土）13時00分～17時30分に、研究企画委員会および大会校による障害学会大会シンポジウムを同志社大学良心館RY地下2教室で行い、同時にこれをZoomウェビナーで配信する。シンポジウムのテーマは「障害者権利条約と知的障害者の脱施設化」であり、企画趣旨や次第等は大会サイトに掲載している。文字通訳・手話通訳の準備がある。

　大会参加費は、自由報告者3,000円、シンポジウムのみ参加者1,500円である。

* 研究企画委員会から

　2021年度の活動として、研究企画委員会では第19回大会シンポジウムの企画立案を行った。「障害者権利条約と知的障害者の脱施設化」というテーマで登壇者を選定するべく、研究企画委員会メンバーで複数回のミーティングを行った。なお、第19回大会シンポジウム当日は、2022年8月に予定されている障害者権利委員会による障害者権利条約の初回日本審査に関して中心的な役割を果たすヨナス・ラスカス氏（リトアニア国立ヴィータウタス・マグヌス大学教授・国連障害者権利委員会副委員長）に、障害者権利条約の第19条の展望や課題について、とりわけ知的障害領域に焦点を当てて、締約国に求められている脱施設化の考え方と実践・政策のあり方とは何かということについて、COVID-19の流行についても触れつつ基調講演をしていただく予定である。続くシンポジウムでは、研究企画委員会メンバーである岡部耕典氏をコーディネーター、麦倉泰子氏を指定討論者とし、パーソナルアシスタンス、重度訪問介護、グループホームという３つの切り口で、同じく研究企画委員の鈴木良氏を含む、各領域を代表する３名のシンポジストによる報告とディスカッションを行う。

（委員長：熊谷晋一郎）

* 編集委員会から　『障害学研究』について

・第17号『障害学研究』の発行について（2022年4月刊行）

・第18号『障害学研究』の発行について（2022年12月刊行を目標）

・第19号『障害学研究』の編集準備について（2022年9月15日投稿締切）

（委員長：堀田義太郎）

* 国際委員会から

　国際委員会は、本学会における国際的な交流や協力を促進するために2021年11月の理事会によって新たに設置された。

【2021年度　活動報告】

1．国際委員会エッセイコーナー（障害学の風）の開設

　　学会サイトにコーナーを設置。第3号まで掲載済み。

2．学会員向けに国際委員会からの情報提供を行った。

3．障害学国際セミナー2022の共催

　2022年2月26日、27日に「障害者の地域での自立生活」をテーマとする障害学国際セミナー(East Asia Disability Studies Forum)2022を共催。学会から石川准会長（開会挨拶）、熊谷晋一郎理事・立岩真也理事（基調講演）、伊東香純会員・桐原尚之委会員・大谷いづみ会員（報告）、長瀬修理事（総合司会）が参加。

4．日仏障害研究セミナーの共催

　2022年3月10日から12日までEHESS（フランス国立社会科学高等研究院）主催、日仏の障害に関する研究セミナー（Séminaire handicap France-Japon）にて、杉野昭博会員、立岩真也理事、田中恵美子理事、土屋葉会員、長瀬修理事が報告。テーマは社会政策、社会運動、教育。

5．米国の障害学会（SDS）大会への参加

　2022年4月10日、SDS年次大会（日本時間）の全体会（plenary）にて石川准会長と長瀬修国際委員長が報告。

6．「ウクライナへのロシア連邦による侵攻と障害者の保護と安全に関する障害学会理事会声明」の翻訳協力英語版には長瀬委員長とブックマン・マーク委員、中国語繁体字版には高雅郁委員、ロシア語版にはアストギク・ホワニシャン委員がそれぞれ協力した。

【2022年度　活動計画】

1．国際委員会エッセイコーナー（障害学の風）の継続

2．国際委員会からの情報提供の継続

3．その他、学会の国際的連携の推進

（委員長：長瀬修）

* 20周年記念事業実行委員会から

①出版事業WG

　障害学会第39回理事会（2021年11月22日）において、会長・事務局長から20周年記念事業実行委員会の新設（～2023年度まで）が提案され、理事会で承認された。この委員会は、石川会長が委員長として全体統括を担い、その下に「出版事業WG」が位置づく。

　すでに障害学会サイトで掲載しているとおり、出版事業WGは、理事である岡部耕典氏、川島聡氏、高森明氏、山下幸子から成り、山下がリーダーを務めている。

【2021年度活動報告】

　障害学会創設20周年を記念する書籍の刊行を目指し、会長、事務局長、WGで、書籍刊行の方法や内容、情報アクセシビリティ等に関する議論を重ねてきた。そうした議論の結果、学会誌『障害学研究』第20号を記念号と位置づけ、2024年3月末日内の刊行を目指すこととなった（20号のみ、編集は、学会の「障害学研究編集委員会」ではなく、20周年記念事業実行委員会が担う）。

【2022年度活動計画】

　2024年3月末日までの刊行を目指し、活動を進める。執筆者同士の進捗状況の確認等を行いながら、学会20周年を記念する書籍の刊行に向けていく。

（WGリーダー：山下幸子）

②日米障害学会共同開催WG

　障害学会第39回理事会（2021年11月22日）において、会長・事務局長から20周年記念事業実行委員会の新設（～2023年度まで）が提案され、理事会で承認された。この委員会は、石川会長が委員長として全体統括を担い、その下に米国の障害学会（SDS）からの大会の共同開催提案を受けて「日米障害学会共同開催WG」が設けられた。

【2021年度　活動報告】

　SDSとの連携を進めるために、国際委員会と連携して２０２２年４月のSDS大会への参加（オンライン）に向けて、SDS側と協議を続けた。（その成果として、2022年4月10日、SDS年次大会（日本時間）の全体会にて石川准会長と長瀬修国際委員長が報告を行った。

【２０２２年度活動計画】

　2022年7月30日の理事会にて、20周年記念大会企画WGの発足が決定。石川准（委員長：会長）、長瀬修（リーダー：国際委員）、熊谷晋一郎・岡部耕典（研究企画委員）、山下幸子（20周年記念出版企画リーダー）、堀田義太郎（編集担当）、川島聡（渉外担当）、田中恵美子（国際委員）をメンバーとした。なおメンバーは企画内容によって学会員から補充の予定。

（WGリーダー：長瀬修）

* 各担当からの報告

①広報担当報告

会員からの情報提供について

　現在、以下の広報用メールアドレスを取得して、会員から寄せられたイベント・出版等の情報を一斉メール配信している。

イベント・出版等の告知を希望される会員は、以下の情報を広報担当までお送りください。

送り先：jsds\_info@googlegroups.com （障害学会広報担当）

・件名：

・本文：

・配信希望日：

（受付から配信まで数日いただくことがあります）

* 2023年度　第20回大会について

　第20回大会は、大会長は熊谷晋一郎理事が務め、東京大学を会場にして開催を予定している。学会設立20年にあたる年であることから、大会実行委員会を組織し開催に向けた準備を行う。なお、新型コロナウィルス感染症の状況が予測できないため、開催形態はいまのところ未定である。状況の変化を踏まえながら検討し、決まり次第、HP・メール等で会員に告知する。

以上